

【小学校・中学校・義務教育学校用】
令和2年度学校評価 結果

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	唐津市立成和小学校
1 前年度 評価結果の概要	・校内研究を中心に道徳教育に取り組んできたことで、児童の自己肯定感を高め、心の教育の推進を図ることができた。 ・不登校傾向の児童は、増加傾向にあり、校内の支援体制の充実と関係機関との連携を推進していく。
2 学校教育目標	「HEART」、「POWER」、「CHALLENGE」 ―あたたかく 力強く 目標にチャレンジする子どもの育成― 【心をひとつに「チーム成和」】
3 本年度の重点目標	①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、指導方法の工夫・授業改善に取り組む。 ②不登校を生まない学校づくりに取り組む。 ③いじめ防止と早期発見・早期対応に向けた体制づくりに取り組む。

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目								
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	最終評価 実施結果	学校関係者評価 評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	○課題解決に向け、複数意見からまとめるような話し合い活動の場を仕組む。	B	・コロナのため、交流活動が活発に行えなかったが、ワークシートや書き込みをしたノートなどを回して自分の考えと友達のを照らし合わせることでできた。	B	・コロナ禍で対応が難しいかと思うが、感染者を出さずに取り組めたことが成果だ。 ・今後も児童に学習への意欲を高め、達成感や自信をつけさせる授業に取り組んでほしい。 ・ボトムアップの取り組みが一番大事である。	学習研究部 学力向上CO
	●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳授業の充実と、道徳意識調査で、児童の自尊感情についての肯定的評価を80%以上にする。	B	・毎時間打ち合わせを行うことができた。 ・授業後に児童のワークシートを提示して、道徳的価値観を共有し、広めることができた。	B	・児童の心を育む道徳の授業は、重要である。意欲的に取り組んでいる学校に感謝する。 ・家庭への広報を通して、家庭でのしつけの大切さを伝えてはどうか。	学習研究部 道徳担当
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○学早期発見・早期対応を行い、児童のいじめを0にする。	○毎月、心のアンケートをとり、実態把握を行う。 ○些細なことでも、校長、教頭、生活指導担当、養護教諭などでチームを作り、学校として解決に当たる。	A	・3学期は学校のアンケートだけでなく、東のいじめアンケートも行うことにより、いじめの早期発見・個別の対応を行うことができた。 ・いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教員100% ・児童理解を行うことで、気になる子ども達に声をかける等、全職員で指導に当たることができた。また、3学期は、来年度への申し送りをする事で継続的に指導する体制作りができている。	A	・いじめに対する対応や体制について対策委員会で十分な内容であることを確認している。 ・職員間の児童についての情報交換を大切にして指導・支援にあたってほしい。 ・学校外の専門機関との連携を大切に、新しい情報なども積極的に取り入れて活用してほしい。	生活部
	○不登校を生まない学校づくり	○児童を主体とした魅力ある集会活動に取り組む。学校の一員として、集会活動に取り組むことができたと回答した児童が70%以上	○児童が主体的に取り組むことができるような集会(行事)を、学期に1回実施。 ○集会に向けて、児童が意欲的に参加することができるような話し合いの場の設定。 ○集会に関する振り返りアンケートの実施。	A	・コロナ感染防止を心がけながら、工夫をして1年生を迎える会、平和集会、GTO集会などを実施した。 ・6年生ありがとう集会も、代表委員会で話し合い後、コロナ感染防止を心がけながら、クラス単位での練習・発表ができるように実施した。 ・集会に関する振り返りアンケート調査で肯定的に回答した児童91%。	A	・児童が主体的に集会活動等に取り組むことは、自主性と協調性が養われ、不登校を生まない学校づくりに効果がある。	特活部
	○早期発見、組織的な対応に努め、不登校児童を2%以下にする。	○毎月、心のアンケートをとり、実態把握を行う。 ○スクールカウンセラーやSSWとの連携を図り、校長、教頭、生活指導担当、養護教諭などでチームを作り学校として解決に当たる。	B	・不登校への対応は、スクールカウンセラー・SSWとの連携を図りながら、解決の糸口を見つける努力を行っている。 ・保護者とも連携をとり、児童の指導・支援にあたっている。現在、不登校児童は、2.2%程度である。	B	・全国的に増加傾向にある不登校であるが、家庭の状況などによる影響も大きく、学校としては十分な対応をさせていただいている。 ・スクールカウンセラー等の専門機関・専門家との連携を大切にすることが大切である。	B	生活部
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」	①授業以外の休み時間で運動やスポーツを行う時間が5日間で150分以上の児童生徒70%以上	○外遊びの奨励と環境作り(晴れの日を外遊び、毎月1日ノーメディアデーの取り組みの確認をして意識付けをする) ○持久走大会、縄跳び大会に向け、昼休みに練習時間を確保し、取り組ませる。 ○体育委員会を中心に昼休みを使って、スポーツチャレンジの取り組みを行い、体力向上に努める。	A	・体育館使用を雨天時のみに制限したことで、外遊びをする児童が増え、教室に残る児童が減った。「進んで外遊びや運動をしている」と答えた児童が84%、「お父さんが運動習慣を身に付けている」と答えた保護者が90%であった。	A	・家庭で外出自粛をせざるを得ない状況で、学校の取り組みとして取り組んでいただけたことは、非常に有意義であったと考える。 ・十分な取り組みをされている。	保体部
	②「望ましい生活習慣の形成」	②衛生検査の実施(各項目90%以上の達成目標)	○毎朝、衛生面についてのチェックを欠かさず行い、健康についての意識付けを行う。	A	・マスク、歯磨き、顔洗いの達成率はほぼ100%に近く、はみがき、ティッシュは86%であった。 ・運動時のマスク着用を運動の強度に応じて教師が臨機応変に対応して健康への留意も図る必要がある。 ・健康調査を提出し、健康であることを確認することができた。しかし、一部で登校後に児童が記入している様子も見られた。	A	・授業参観の折に、換気や手洗いが徹底されていることを確認できた。 ・学校としてしっかりと感染防止対策に取り組んでいたとされている。 ・感染防止のためには、学校だけでなく家庭との連携が大切である。	保体部
	③「安全に関する資質・能力の育成」	③児童生徒の交通事故・犯罪被害を0(ゼロ)にする	○地域の方と協力しながら、朝の交通指導を行う。 ○年に1回、交通安全指導・自転車の乗り方の指導を行う。 ○低学年では毎日、集団下校を行い、地区児童会では、全校による集団下校を行う。 ○安全集会を行い、命の大切さや防犯意識を高める。	B	・朝の交通指導を地域の方と協力して行うことにより、安全を意識して登校することができた。 ・3学期に安全集会を行い、児童の防犯意識を高めることができた。また、防犯ブザーを携帯するよう保護者へ協力を求めた。 ・1年生は毎日集団下校をし、また他の学年も時間を合わせて下校させることにより、大きな事故もなく安全に下校することができている。	A	・学校で取りえる対策は十分に行っていると考えられる。 ・交通事故は、児童が十分に注意していたとしても、相手に過失がある場合もあり完全に防ぐことは難しい。	生活部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を(45時間)遵守する。 ○教育課程のスリム化と業務の精選・簡素化を図る。(前年度比10パーセント減)	○教育課程や行事などの提案において、業務量が前年度比10パーセント減となるように提案する。 ○定時退勤日の設定し徹底する。 ○職員各自が、毎月の時間外勤務集計記録を確認しながら、時間外勤務の上限を(45時間)超えないように勤務時間の調整に取り組む。	B	・全職員の時間外勤務の平均時間は34.3時間であった。 ・定時退勤日の実施については、9割以上の達成状況であり職員の意識も定着してきている。 ・業務削減に向けた教育活動の精選・縮小・精選については78%の職員が十分達成・おおむね達成を回答しており、学校としての取り組みは成果が見られる。	A	・イベント開催の可否の検討や度重なる学校運営計画の変更が必要なのか、大きな改善が見られたことは、次年度にも反映すべきと考える。 ・教育委員会等への提出書類の簡素化を図ることが大事ではないか。	教頭
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目								
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	最終評価 実施結果	学校関係者評価 評価	意見や提言	
◎志を高める教育	○自らの夢や目標の実現に向けて努力す態度を育む。	○学校教育目標「ハート』『パワー』『チャレンジ』の児童の認知の割合を95%以上にする。	○様々な教育活動における指導場面で、『ハート』『パワー』『チャレンジ』と関連付けた支援・指導を行う。	A	・学校目標の認知は、保護者89%、児童98%であり高い認知の割合であった。 ・全職員が日頃から児童に対して、学校目標を意識した指導を行っている。	A	・授業参観等でも明るい挨拶が見受けられ、学校目標に沿った校風が育まれていると考える。	教頭

●…果共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望

・全職員で重点目標、取り組み内容及び現状・課題等を共有して実践を回ったことで、PDCAサイクルにそった組織的な取り組みができたことは成果である。次年度の計画に当たっては、今年度の成果と課題を踏まえて、実効性のある具体的な取り組みや成果指標を設定する。
・コロナ禍にあり、様々な教育活動の実践に影響があった一年であった。次年度もまだまだコロナ禍の現状は継続することが予想されるので、それを踏まえてコロナ禍にも対応できる具体的取組や成果指標を設定し、教育活動の展開を図りたい。
・「学力の向上」に関しては、コロナ禍の現状を踏まえて、「主体的、対話的で深い学び」の視点に立った授業改善と指導方法の工夫に取り組んでいきたい。
・次年度も引き続き重点目標として「不登校を生まない学校づくりに取り組んでいく。残念ながら不登校傾向の児童は増加の傾向にあり、早期発見・組織的な対応について一層の取り組み強化を図っていく。
・次年度は、新型コロナウイルス感染とクラスター発生を防ぐことを「健康・体づくり」の重点として取り組んでいく。感染防止対策の強化と定着を図り、感染防止を最優先事項として取り組んでいく。